

平成 30 年度 市民意見交換会（福祉文教常任委員会）

《平成30年11月21日》

意見交換の相手団体：中学校区内の小学校から選出の校長と教諭

意見交換会のテーマ：各学校の特色ある取組み・教育現場の現状とこれからの課題について

主な意見（一部抜粋）

- ・PTAは熱心で学校にも協力的だが、外部からの移住者が増えたことで保護者同士の関係が希薄なところがあり、登下校などで問題があったときに、地域の中で問題解決できず、学校に相談してくるケースが増えている。
- ・児童の登下校を多くの地域の方が見守ってくださることはありがたいが、下校時間を全てお知らせしなければならないため、補充授業などがしにくい状況であり、昼休みや大休みで対応している。
- ・子供の貧困問題もあり、夏休み中のお昼御飯なども心配である中、NPO団体によって子供食堂が開設されたりしている。また、DVや児童虐待の家庭と学校をつなぐため、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー等にもお世話になりながら対応している。
- ・教師歴5年未満の若く経験不足の先生が増加している中で、様々な必要な労力は増えており、遅く帰る先生も増えている。先生方の資質や能力をどのように高めていくかが重要な課題でもある。
- ・小規模校は友達関係の固定化というデメリットもあるが、きめ細やかな指導や異学年との交流、地域とのむすびつきが強いなどのメリットも大きい。
- ・第2給食センターができることで、地産地消にこだわった、調理員の顔がわかる温かい給食がなくなってしまうことに不安を感じる。また、栄養教諭さんがおられれば、アレルギー対応もきめ細やかにできるのは自校給食のよさでもある。